

## 平成20年度質の高い大学教育推進プログラム審査結果表【選定】

機 関 名	久留米大学				
取 組 名 称	医療分野の経営管理者育成プログラム				
取組学部等	商学部				
申 請 区 分	教育課程の工夫改善を主とする取組				
整 理 番 号	A11202	申 請 の 形 態	単 独	取 組 期 間	3 年
申 請 の 分 類	専 門 基 礎	職 業 教 育		知 的 財 産	
キ ー ワ ー ド	医療分野の経営管理者, 医薬特許価値評価モデル, 7段階テスト, 現場実習, 医療経営管理能力認定証				

### <選定理由>

本取組は医療分野における経営の視点から、医療の環境改善に取り組むプログラムで、高齢社会を支える人材を育成するものとして高く評価できる。

特に、現場実習を取り入れた実践的教育を実施することについては、医療分野の経営管理者を育てる上で意義を有するものと評価できる。さらに、知的財産権などについて具体的な知識の習得を行う機会を提供することで、医薬分野での経営管理者育成にも寄与するであろう。

また、大学が教育目標の明示化や、ゼミ中心の少人数教育を通じて実践的な教育を実施する方針の明確化などを行っていることは、本取組の実現性を高めるものと評価できる。

ただし、さらなるプログラムの改善を行うためには、医学部との連携をさらに深めるなど、実施可能な施策があるものと考えられる。取組実施にあたっては、このことに対応しつつ、着実に取組の成果を上げることを期待する。

## 取組の概要【1ページ以内】

本取組は、質の高い「医療分野の経営管理者」を育成するための教育課程に係る工夫改善を主とする取組である。医療分野の経営管理者とは、医師または介護福祉士等の立場とは異なり、経営管理の立場から医療機関等においてビジネス・マネジメントを担う者のことである。高齢化社会においては、医療分野に対する社会的ニーズは高く、したがって、その経営状況は本来良好であって然るべきといえる。ところが、現状に目を向けてみると、経営困難に陥っているケースが多い。かかる経営困難の原因の一つは、同分野に質の高い経営管理者が不足しているためと考えられる。そこで、我々は質の高い「医療分野の経営管理者」を育成するための教育課程を工夫改善し、質の高い大学教育の推進に取り組むことにした。本取組が育成する医療分野の経営管理者には、質の高い経営管理スキルを發揮し、医療分野の経営効率性を向上させるばかりではなく、医療サービスの質を維持向上させ、ひいては高齢化社会に活力をもたらすことが期待される。

医療の経営管理者に求められる能力は、医療分野の諸活動内容を十分に理解し、医業会計スキルや医業経営コンサルティングスキル等に基づいて、これを経営管理できる能力である。かかる能力を修得させるには、医療機関がおかれた経営状況をマクロ的に理解する知識・スキルとともに、医療組織の特徴とその経営課題をミクロ的に理解する知識・スキルが必要である。さらには、マーケット・リサーチ、経理、事業計画、リスク・マネジメントなどの高度な経営管理スキルをも身につけさせる必要がある。

また、製薬企業に目を向ければ、医薬特許の効率的活用によって、研究開発投資の回収及び未利用特許の収益化を図る能力等が経営管理者に求められている。かかる能力の修得には、医薬特許価値評価モデルのマスターとともに、同モデルから得られた価値評価額をライセンスなどの方法で活用するスキルを身につけることが必要不可欠である。

そのための教育課程として、本取組では「入門科目(20単位)」及び「基礎科目(28単位)」において一般的な経営知識等を修得させた上で、「コア科目(40単位)」において、医療分野の経営管理に固有の能力を修得させる。また、座学としての講義科目を学ぶだけではなく、実践力を担保するために、実際の現場で医療経営を体験的に学修させる「現場実習」を教育方法として取り入れている。さらに、医療経営管理者に必要な知識と現場実習による実践スキルとを体系的に問う「7段階テスト」を各コア科目に取り入れている。現行では、学修の到達度を学期末に行う定期試験だけで評価する傾向にある。

これに対して、本取組における「7段階テスト」は、1コア科目の学修内容を7段階に区分し、各段階が終了する毎に試験を7回実施するものである。かくして、各コア科目につき7つの節目ごとに、学生に対して日々の勉学努力を求めるものであり、「7段階テスト」は、すべてのコア科目が求める必要な知識と実践スキルを学生に修得させることのできる教育方法である。

以上の教育課程及び教育方法によって、質の高い大学教育を推進できるものとする。この「7段階テスト」において全科目につき80%以上の得点を収めた学生に対して「医療経営管理能力認定証」を与え、該当学生の医療分野への進路を学部としてサポートする。本取組の成果については、「成果講演会」及び「成果報告書の刊行」を通じてこれを社会還元することとしている。